

小野寺 玲子 さん

Reiko Onodera

走る場所 : 東北学院大学工学部グラウンドバス停前

走る日時 : 2021年6月20日(日)

志望動機

(大会組織委員会に提出されたものを、そのまま掲載しています。)

薬剤師として宮城県の調剤薬局で16年働いています。私のアドバイスがきっかけで、症状が改善したという方からお礼の言葉を戴くことにやりがいを感じ、ここが私の輝ける場所なのだと実感しています。東日本大震災の時は、被害の大きかった宮城県の東松島市矢本で勤務をしていました。震災を通じ、家族や友人はもちろん、人との絆、命の尊さ、儚さを目の当たりにし、こうして過ごしている日常も当たり前ではないと感じるようになりました。そんなときもどんなときでも、スポーツ選手は勇気や希望、沢山の感動を与えてくれます。私も何か選手の力になれないかと、仕事を活かせるスポーツファーマシストの資格を取得しました。薬局や地域のイベント等でドーピング防止の啓蒙活動のお手伝いをさせていただいています。仕事上、長期休暇取得が難しい為、資格を活かせるオリンピックのボランティアを諦めました。是非、聖火を繋ぐお手伝いをしたいです。

(2020年用に書かれた文章です。)

例え何年延期になったとしても、聖火ランナーとして走れることはとても楽しみです、誇りに思います。距離的には練習の必要なんてないのかもしれませんが、運動不足の為、練習の時間が増やせることはありがたいです。近い将来に楽しみがあると考えると、胸が踊ります。ただ医療に携わる者として、新型コロナの感染拡大の状況の中、オリンピックを開催するのか、できるのか、という思いもあり複雑です。選手の方々もどんな気持ちでいるのでしょうか。1日も早く新型コロナが終息し、心から楽しめるオリンピックになることを祈っています。

(2021年用に書かれた文章です。)